

アイガモ農法田で喜びの収穫



稲刈り作業を体験する児童たち

瑞穂小学校(一戸瑞校長)の5年生62人は10月5日、学校田(2.5畝)でアイガモ農法によって生育した稲を刈り取り、収穫の喜びを味わいました。

同校は、JAごしょつがる木造総合支店「おいしいごはんを作る会」(浜山敏彦会長)の指導で、5月20日に田植えを行った後、アイガモを放鳥しながら苗の観察を続けてきました。

収穫には同会から高橋金義さんが指導に訪れ、児童たちに稲刈りのコツや刈り取った稲の束ね方などを説明。児童たちは収穫できる喜びに感謝を込めて、自分たちで考えた「収穫ダンス」をみんなで踊り、「がんばって刈り取るぞー、オッー!」とかけ声を掛けて、一斉に稲刈りを始めました。刈り取った稲は棒がけして乾燥させ、脱穀作業も体験することになっています。

災害発生!優先すべき対応は…

大規模災害を想定して市は10月16日、机上での図上シミュレーション訓練を行いました。

訓練には市職員約70人が参加。「同日9時32分、青森県西方沖を震源とするマグニチュード8.2の地震が発生し、震度6強を観測。地震により建物の崩壊及び火災が発生した」との想定で行われました。

職員は市防災計画に基づき、総務班、消防班、水道班など9班に分かれ、分刻みに外部から寄せられる被害情報を処理しながら応急対応などを確認しました。

また、県防災消防課の堀内直樹危機管理対策監も指導に訪れ「災害が発生した際は、状況の予測や情報の優先順位を的確に対応することが大切です」と講評。職員は今後も定期的に訓練を積み重ね、緊急時の迅速な対応に努めていきます。



実際に被害が発生した想定で行われた図上訓練

閉校を惜しみつつ校歌を斉唱する生徒たち



62年の伝統と誇りを胸に —木造高稲垣分校が閉校式—

県教委の高校再編計画によって2010年3月末で閉校となる木造高等学校稲垣分校(大川満校長)は10月17日、62年間の歴史に幕を閉じる閉校記念式典を稲垣体育館で行いました。

同校は1948(昭和23)年6月に定時制課程の分校として開校し、1978(昭和53)年から全日制課程に移行。ボランティア活動への取り組みは高い評価を受け、1,311人の卒業生を輩出してきました。

式典には在校生28人をはじめ、同窓生、来賓ら約350人が出席。大川校長は「高等教育の灯が稲垣から消えるのは愛惜の極みです。在校生の皆さんは、先輩方が築き上げた伝統と誇りを胸に巣立ってほしい」と式辞。続いて閉校記念事業実行委員会会長の福島弘芳市長があいさつし、生徒会長の八木橋大地君が「多くの人に見守られながら成長させていただきました。稲垣分校の生徒になったことを誇りに思いたい」と感謝のこぼれを述べました。

モニュメントのテーマ 「感謝・旅立ち」

表面には校章、裏面には校歌を入れ愛校心をより高める構成になっている。両サイドの上方に伸びゆく形は感謝と新たなスタートを表現し、訪れた人が「学び舎での思い出を回想し、懐古できるように」との願いを込めてデザインされている。





「幼稚舎がここにあったこと、木造の方々への感謝の気持ち、戦争のない社会が続いてほしい」という思いを込めて建立された長さ3mの横長の碑を見入る卒業生ら。上面には疎開の経緯が記されている

時代に地元の人から命の糧をいただき、心から感謝いたします。万感もった碑であることを後世に伝えたい」と話していました。

後世に伝える 一疎開の記念碑を建立

大戦中の1945（昭和20）年、旧木造町に疎開してきた慶應義塾幼稚舎（東京都渋谷区）の卒業生が10月17日、旧制木造中学校跡地の銀杏ヶ丘公園に、当時お世話になった町民への感謝の印として「疎开学園の碑」を建立し、除幕式が行われました。

同年、慶應義塾幼稚舎の1～6年生140人の児童は、戦火を避けるために旧木造町に疎開。旧制木造中学校寄宿舎、西教寺、慶應寺の3カ所に分宿して3カ月半にわたる生活をおくり、食糧難の中にも関わらず、温かい町民の援助によって児童一人も欠けることなく帰京することができたそうです。

除幕式には、疎開していた卒業生や地元関係者ら約70人が出席。卒業生を代表して小野沢忠男さんが「物がない時

基礎を学べ!ジュニアバレー教室

広域的にスポーツに親しむ地域づくりを目的に西北五ジュニアバレーボール教室が10月24日、西北五地域の小学3～6年生約100人が参加し、稲垣体育館で開催されました。

同教室には、日本バレーボール連盟の工藤憲理事長とソウル五輪日本代表の杉山明美さんが招かれ、熱のこもった指導を行いました。

児童らはサーブ、レシーブ、トスなどの基本動作をみっちりたたき込まれ、レベルアップ目指してボールを必死に追っていました。今回の練習が今後の活躍につながることを願っています。



杉山さんから指導を受け練習に取り組む児童

盗難防止の決意表明をする原田さん



許しません!リンゴ盗難

リンゴ農家が丹精込めて作ったリンゴの盗難を未然に防ごうと「つがる市りんごパトロール隊」出動式が10月16日、市役所前で行われました。

出動式には、つがるにしきた農協、つがる警察署、市職員などの関係者約60人が出席。市防犯協会長（福島弘芳市長）が「収穫期を終えるまでパトロールを強化し、リンゴ盗難防止に全力をあげてください」とあいさつしました。

また、パトロール隊を代表して原田保博さんが決意表明し、隊員らは森田地区のリンゴ園地をパトロールしました。

自衛官募集相談員へ委嘱状交付

10月21日、福島市長が自衛官志願者に対して自衛隊に関する情報提供や募集事務を行う自衛官募集相談員へ委嘱状を交付しました。

委嘱状交付式には竹本三保自衛隊青森協力本部長らも訪れ「この地域からも若い優秀な自衛官を募ってくださいようお願いします」とあいさつしました。

相談員の任期は平成21年10月21日から平成23年10月20日までの2年間となっています。



委嘱状交付を受けた相談員の皆さん